

- ① … 浦和レッズ、5大会ぶり3度目の優勝～AFCチャンピオンズリーグ (ACL) 2022
レジスタFCが4大会ぶり4度目の優勝～チビリンピック2023 JA全農杯
- ② … 【フェアプレー・規律委員会】 今、目の前にある危機感～SFAとしてリスペクト、さらには暴力・暴言根絶を考える
「リスペクト」への思い 専務理事 柏悦郎・課題は指導者 フェアプレー・規律委員長 池田一義
- ③ … 宣言書の意味するところ 第4種委員長／フェアプレー・規律委員 大山武士
- ④ … JFA、「リスペクト～大切に思うこと」～これまでの取り組み
- ⑤ … 大会記録●県内大会 1種社会人・2種高体連・女子
- ⑥ … 大会記録●県内大会 フットサル ●県外大会 4種・女子・シニア 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

浦和レッズ、5大会ぶり3度目の優勝 ～AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2022

5月7日、AFCチャンピオンズリーグ (ACL) 2022 決勝第2戦が埼玉スタジアム2002で行われ、浦和レッズがアルヒラル (サウジアラビア) に1-0で勝利し、2戦合計2-1で優勝しました。5大会ぶりとなる3度目の優勝は大会史上最多。これにより、ACL2023への出場権を獲得し、12月に開催されるFIFAクラブワールドカップサウジアラビア2023への出場が決まりました。

振り返れば、昨年4月15日から、15日間でなんと6試合というタイでのグループリーグから、1年以上も経っての栄冠。本当に長い戦いでした。また、2019年の決勝で、あのときと同じアルヒラルと対戦して敗れた雪辱も、晴らしてくれました。本当におめでとうございます。ここからのリーグ戦も期待しています。次は世界の頂点を目指してください。



優勝 浦和レッドダイヤモンズ

【参考】AFCチャンピオンズリーグ2022 | URAWA RED DIAMONDS OFFICIAL WEBSITE (<https://www.urawa-reds.co.jp/>)

レジスタFCが4大会ぶり4度目の優勝 ～チビリンピック2023 JA全農杯

チビリンピック2023 JA全農杯 全国小学生選抜サッカー決勝大会
5月3日～5日 日産スタジアム他

【予選リーグ】

●グループB

レジスタFC(関東2位) 2-0 カターレ富山
レジスタFC 2-0 シーガル広島
青森FC 0-4 レジスタFC

※レジスタFCはグループ1位で決勝トーナメント進出

【決勝トーナメント】

1回戦 レジスタFC 3-1 アイリスFC住吉(関西2位)
準決勝 レジスタFC 1-0 パディーSC(関東1位)
決勝 DREAM FC(関西1位) 1-2 レジスタFC

※レジスタFCは4大会ぶり4度目の優勝



優勝 レジスタFC

JA全農杯でのルール(抜粋)

- ・12分×3ピリオド 計36分
- ・選手の交替:第1ピリオドと第2ピリオド間では選手を総替えること。
- ・第3ピリオドは交代自由とする。
- ・同一選手の出場は最大で2ピリオドまでとし、3ピリオド全てに出場することはできない。
- ・延長戦については前後半で同一選手の出場を可とする。また、自由な交代を適用する。

【フェアプレー・規律委員会】 今、目の前にある危機感 ～SFAとしてリスペクト、さらには暴力・暴言根絶を考える

発展を続けている埼玉のサッカーですが、課題もあります。その一つに、暴力・暴言案件の増加があります。

何が原因と考えられるのか。フェアプレー・規律委員会としての取り組みの一端をご紹介します。今一度、現状を皆さんと再認識したいと思います。暴力・暴言案件は、決して、他人ごとではないのです。(構成／広報委員 荒川裕治)

「リスペクト」への思い

専務理事 柏 悦郎

JFAはJリーグと共に、2008年から「リスペクトプロジェクト」をスタートさせ、様々な啓蒙施策を行ってきました。SFAでも「試合中、文句を言わない」というキャッチフレーズを掲げて活動してきました。しかしながら、昨年度からJFAが設置する「暴力根絶相談窓口」に埼玉県チーム関係者の皆さんからの苦情が多くなっています。4月末日現在、7件(2023年1月1日から数えて)。さらにSFAへ直接連絡をいただいたのが1件。これは非常に残念なことです。

具体的な事例はプライバシー保護の観点から差し控えていただきますが、私自身、対応するにあたり「なぜ?どうして?」と憤りを禁じ得ない案件もありました。現在、池田一義委員長をはじめとするフェアプレー・規律委員会において防止策の検討をお願いしており、すでに4種では具体的な対処策として、各登録チームに対して「サッカーの指導現場における暴力・暴言根絶の宣言」という通知を出し、宣誓書の提出をお願いしているところです(詳細は別項)。

罰則を設けるということよりも、現状、JFAが掲げる「リスペクト」に、どのような思いが込められているのかという理解を求めながら、地道に啓蒙を進めることが重要だと考えています。子供たち、プレーヤーたちが安全・安心してサッカーを楽しむ環境が整ってこそ、サッカーが「文化」になるのではないのでしょうか。

ただ、その環境をよくするのも、残念なものにするのも、指導者次第です。技術委員会を中心として指導者養成講習会、さらにはリフレッシュ研修会を通じて、改めて「リスペクト」「フェアプレー」の精神を伝えていかなければならないと考えています。ぜひ、指導者の皆さんには指導者ライセンスを取得していただき、サッカー経験者であっても、指導者としての心構えを今一度学んでほしいと願っています。また、保護者の皆さんにもサッカーそのものへの理解を深めていただくために、D級ライセンス取得、または発育発達に応じた指導を学べるキッズリーダー講習会の受講をお勧めします。

埼玉のサッカーに関わる皆様、埼玉のサッカーがよりよい発展をするために、ご協力とご理解をお願いいたします。

課題は指導者

フェアプレー・規律委員長 池田一義

2021年度と比較して、2022年度は4種の案件が多くありました。そのため4種委員長で、フェアプレー・規律委員でもある大山さん(武士氏)には、多忙にも関わらず対応していただいているところでした。

私たちの仕事は、規律を犯すような案件に対して、委員会として対処することだと認識していますが、このような案件が出ないようにするためにどうするのかを考えるのが課題だと思っています。

昨年の6月に就任してから、様々な案件を精査しています。その



池田一義委員長

中で個人的に思うのは、子どもたちをどう守るかということです。4種の案件が多いからでしょうか。子どもたちを守らなければならないという気持ちが強くなったと感じています。そもそも、幼児虐待などのニュースは、本当に心が痛くなりますし、気分が悪くなるものです。

JFAの「暴力根絶相談窓口」通報してくるのは、保護者です。案件としては、暴言がほとんどです。指導者が手を出すという案件は少なくなったと思います。ただ暴言ですので、心を痛める子どもが多くなったとも言えます。多くは人格否定です。せっかくサッカーを楽しむために集まった子どもたちなのですから、いい環境が必要です。

その案件内容をお聞きますと「(そのチームを)やめればいいのに」と思うのです。

逆に、その通報された指導者も元々はサッカーが好きで、サッカーを通じて子どもたちを育てていきたいという熱意を持って始めた方たちです。しかし残念ながら、そのやり方、指導の方法が間違っているのです。我々としては、その指導の方向を正す役割も担っていると理解しています。本来の指導者としての立場からは、かけ離れていることが多いですね。指導者からの言葉の「暴力」に苦しんでいるプレーヤー、保護者がいるのですから。

ここに来ての相談案件の急増については、もともとそのチームの中にあった問題が顕在化してきたからだと思っています。

もちろん、JFAに相談窓口があることの認識が高まったということもあるでしょう。ただ顕在化してきたと考えるならば、そのチームの中だけでは解決できなくなったことであり、それは「組織」としてのモラさ、機能不全ということでもあります。そういう面も是正していく必要があります。

サッカーを通じて幸福感を

そのために、とにかく指導者には、意識を改めることを求めていきたいと考えています。

多くの指導者は、少なくともD級ライセンスをお持ちだと思います。講習会の中で学んでいると思うのですが、D級指導者の目的、使命というのは「サッカーの楽しさを伝えることができる」です。

また、小学生は特に年齢的な特性があります。その発育発達に応じた指導が求められるのです。そういう指導が講習会でされていないのでしょうか。いや、やっているはずですが。

どう子どもたちを導いていくのか。サッカーを通じて幸福感を得られる環境を整えていただきたいのです。大人として子どもたちをどう育てていくのか、皆さんで考えてほしいのです。

もしかしら、若い指導者の皆さんもチームを立ち上げた方々の教え子だったりして、なかなか反論できない、自浄作用が上手くできないような土壌があって「変えられない」と思っているかもしれません。でも、だからこそ変えないといけないのです。

中には大人同士、指導者同士のトラブルによって、子どもたちが巻き込まれてしまうということもあります。また指導者が子どもではなく、保護者とトラブルを起こしてしまうこともあります。

ただ、指導者には「あるべき姿」でいてほしいと願っています。やはり課題は指導者をどうするか、になるのです。

例えば、自主性を育てるためにノーコーチングのゲームを

今後、ホームページに「指導者はこうあるべきです」と唱めてもいいと思っています。また、保護者から指導者を評価できるようにし

てもいいかもしれません。

指導者の皆さんは、子どもたちだけでなく保護者からも見られているのです。

ただ意見を言おうと思っても、「子どもがチームを辞めさせられるんじゃないか」とか、「クラブそのものが無くなってしまうんじゃないか。そうなると他の親御さんに悪い」などと考えてしまうこともあるでしょう。「思っていると言えない」という状況になっている保護者の方はいのではないのでしょうか。

やはり、指導者を改善していかなければならないのです。

2種、3種の多くのチームは、指導者が「教育者」として関わっています。ですから、そこまで道を外れた指導はしませんし、指導者自身、自制もできます。ただ、どこかで横柄な態度を取ってしまうこともあります。2種、3種の指導者といえども、「何をすべきか」を言い続ける必要はあると思います。

例えば、4種だと（ベンチから）ノーコーチングのゲームをやってみたらどうでしょうか。各種別で、そういう具体的な施策を提案してほしいとも思っているところです。反対する方もいらっしゃると思いますが、子どもたちの自主性を育てる場になるのではないのでしょうか。やる価値はあると思います。

4種年代の指導者の皆さんを見ていて思うことは、子どもたちの成長を「待つ」ことが難しいのかなと。年代的に考えても、子どもたちに対して「こうやろう」と言っても、急にできるわけでもありませんし、技術的にも急激に伸びるということはなかなかありません。やはりこの年代の指導者は、子どもたちがサッカーを楽しむ時間と場所を作って、見守って、そしてちょっとアドバイスをすればいいのではないのでしょうか。試合で練習で、怒鳴り建てる必要はありません。もしかしら、子どもたちのことを「自分の型」にはめようとしていませんか？ そもそも子どもたちは、サッカーを楽しみにして練習に来ているのです。

ルールはサッカーを楽しむためにあり、ゲームを守るためにある

今、各種別で「ウェルフェアオフィサー」を増やしているところです。各チームに一人はいれる環境を整えたいと思っています。そのためにも、「ウェルフェアオフィサー」の認知度を上げて、子どもたちが安心してサッカーをできる環境づくりに取り組みたいものです。

高校選手権の県大会では、5年前からスクリーンがあるスタジアムでは試合前に「マッチコミッショナー」（試合の責任者）と「マッチ・ウェルフェアオフィサー」を連名で紹介しています。このような試みを、他種別でも行ってほしいものです。

もっと言えば、各種別に「サッカーを守る」人を増やすというイメージでしょうか。チームの中であって、保護者との間に立ったり、チームの中での問題をも解決してくれる存在は必要です。

昨年度、「ウェルフェアオフィサー」のジェネラルを30名近く取得していただきました。その皆さんに講師になっていただき、種別ごとに講習会を開催してもらう予定です。

※「ウェルフェアオフィサー」については、別項で紹介

今年、久々に母校（市立浦和）の初蹴りがありました。グラウンドが人工芝になったこともあり、多くのOBが集まってくれました。大人たちがゲームを楽しんでいる横で、子どもたちとそのお父さんたちが一緒にボールを蹴っているのを見て……楽しそうだなと思ったんです。いいなあ。

昔、僕らもサッカーを好きになって夢中になりました。やはり子どもたちにとってサッカーを楽しむ環境づくりは大切だと思うんですね。

そう、ルールはサッカーを楽しむためにあり、ゲームを守るためにあるんですね。そういうことを皆さんと一緒に再確認していきたいものです。



宣言書の意味するところ

第4種委員長／フェアプレー・規律委員 大山 武士

私は昨年度より、SFA 第4種委員長を務めると同時に、4種を代表してフェアプレー・規律委員会の委員にも就任しました。

その就任早々、「JFA 暴力根絶相談窓口」に県内の4種チームに対する通報があり、この案件を担当。調査のため各方面への面談等を行いました。

以前より、通報案件に関する話を聞くことはあったものの、実際に調査を担当して通報者と面談してみると、子どもたちの指導現場において、あってはならないことに直面しました。

サッカーの指導現場において、厳しさも時として必要なのは理解できる部分はあります。しかし、暴力は必要ないと考えています。

子どもたちがサッカーを始めたきっかけは様々でしょう。「サッカーを楽しみたい」と夢を持った子どもたちが、暴力・暴言を用いた大人の指導がきっかけで「サッカーを辞める」という選択をすることは、絶対にあってはならないと思っています。

指導者の皆さんにお願いがあります。

子どもたちへ伝える言葉、少しでも工夫してみたいはいいがですか。指導者の皆さんが伝えたいメッセージは、暴言を用いなくても、少し工夫するだけで理解してくれるのではないのでしょうか。感情を表に出しても、伝えたいことは伝わりません。逆に子どもたちの恐怖心をあおり、萎縮させるだけではありませんか。

私は、個人的には子どもたちを守る立場でもあるとともに、指導者も守っていく立場でもあります。そのような立場だからこそ伝えたいと思うのです。サッカーに関わっている人たち全員で、しっかりとした組織づくりを進めていかなければ、いわゆる「良いサッカー環境」はできないと思うのです。

この宣言書は、この1年目を振り返り、自分として、4種として「何かできないか」と考えた試みの一つです。まずは、チーム側のきっかけづくりになればと考えました。JFA から発信されている宣言書を参考に、柏専務理事や池田委員長と相談をしながら作成し、4種委員会に関わる人たちに同意をいただいたものです。宣言書をお読みいただき、4種の全登録チームの指導者の皆さんに、宣誓書の提出をお願いしています。

この宣言書の意味を一人でも多くの指導者に理解していただき、子どもたちの未来のためにサッカー現場で携わっていただきたいと願っています。

（管理用）

サッカーの指導現場における暴力・暴言根絶の宣言

未来を担う子どもたちや選手を育てる指導者は、日本のスポーツ発展の一翼を担っています。選手がサッカーを楽しみながら成長していくこと、彼らの向上心を高め、挑戦する姿勢を後押しすることが指導者に課せられた重要な使命なのです。

失敗を恐れず、たくましく選手を育てるためには、時として厳しき指導も必要です。それ自体を否定するものではありませんが、その中に暴力的な指導は含まれてはならないものです。

日本サッカー協会や埼玉サッカー協会が掲げている「Players First」、そして「リスペクト」の精神をあらゆる取り組みの基盤とし、これからの一層徹底していきます。サッカーの指導現場の改善に努め、その努力を惜しみません。そして、登録チームのすべての指導現場での暴力や暴言を用いた指導をしない、させないこと、いかなる目的であっても暴力を許容せず、スポーツ現場における暴力根絶の努力をつづけることを誓います。

これは選手を守るだけの立場に立つ指導者にプレッシャーをかけようというものではありません。指導者の皆さんを今まで以上にリスペクトし、支援することで、サッカーを取り巻く環境を真の達成感と気晴らしの場となる豊かなものにしていきたいと考えています。

これらの考え方に賛同いただき、関わるすべての皆さんと協力し、固執してより良い指導環境をつくりたいと考えています。

以下の宣言書にご署名の上、ご賛同の意思表明とさせていただきます。何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

2023年4月1日

公益財団法人埼玉サッカー協会
フェアプレー・規律委員長 池田 一義
第4種委員長 大山 武士

公益財団法人埼玉サッカー協会 第4種委員長 殿

宣 誓 書

当チームは、次の事項を遵守することを誓います。

- あらゆる活動において、「リスペクト（大切に思うこと）」の精神を尊重する
- 暴力・暴言を用いた指導をしない、させない
- いかなる目的であっても暴力を許容せず、スポーツ現場における暴力根絶の努力をつづける
- チーム活動に関わるすべての人が安心安全にサッカーをできる環境を整備する

- ・ハラスメントから守る
- ・健康を守る
- ・良き指導者の養成と有資格者指導者を適切に配置するよう努力する

2023年 月 日

チーム名 _____ 代表者氏名 _____ 印 _____

JFA、「リスペクト～大切に思うこと」～これまでの取り組み

● 2008年「リスペクトプロジェクト」をスタート

リスペクトの本質を、常に全力を尽くしてプレーすること、そしてそれはフェアプレーの原点であるにとらえています。仲間、対戦相手、審判、指導者、用具、施設、保護者、大会関係者、サポーター、競技規則、サッカーというゲームの精神、それらサッカーを取り巻くあらゆるいろいろな関係の中でとらえていきたいと考え、「大切に思うこと」としました(リスペクト宣言より)

● 2011年「リスペクト FC JAPAN」を開設

● 2014年「ウェルフェアオフィサー」設置

※「ウェルフェア (Welfare)」とは、幸福、快適な生活、福利などの意味を持つ役割

ウェルフェアオフィサーは、リスペクトやフェアプレーを啓発、促進し、暴力、差別等の予防活動を通じて、問題を未然に防ぐ、また、顕在化した諸問題に対応、問題解決を図ると共に、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担う。

1. ウェルフェアオフィサー (ジェネラル)

……JFA が認定し、FA 内で講師としてマッチ・ウェルフェアオフィサー、クラブ・ウェルフェアオフィサーを養成する

【業務】

- ① リスペクト、フェアプレーの啓発、促進及び暴力、差別等の予防並びに児童の安全保護のための組織、体制作り、実施計画の策定
- ② リスペクト、フェアプレーの啓発、暴力及び差別等の予防並びに児童の安全保護のための講習会、研修会等の開催またキャンペーン活動の実施
- ③ 関連委員会、団体との会議の開催
- ④ 暴力、差別事案に関し、関係者への指導、改善案の提示（司法機関、技術委員会、審判委員会に係る事項を除く）
- ⑤ その他、ウェルフェアオフィサーの役割を果たすために必要と考えること

2. マッチ・ウェルフェアオフィサー

【役割】（抜粋）

- ②競技会会場におけるリスペクト精神、フェアプレーの啓発、促進
及び暴力、差別等予防活動
- ② 競技会会場におけるリスペクト、フェアプレーに係る教育活動
3. クラブ・ウェルフェアオフィサー

【役割】（抜粋）

- ①所属クラブにおけるリスペクト、フェアプレーの啓発、促進及び
暴力、差別等予防活動
- ②所属クラブにおけるリスペクト、フェアプレーに係る教育活動

●2014 年から毎年 9 月上旬に「JFA リスペクトフェアプレーデイズ」を開催

● 2019 年「JFA サッカーファミリー安全保護宣言」

1. サッカーにおける暴力・暴言を根絶します ゼロ・トレランスの実現
2. 子どもたちをハラスメントから守ります。
3. 子どもたちの健康を守ります。
4. 良い指導者の養成と有資格指導者を適正に配置します。
5. 暑熱環境下等でのサッカー環境を改善します。
6. 年齢・性別・障がい・人種に関係なく、サッカーを楽しめる環境を整備します。

●2021年、子どもたちを守るための「JFA セーフガーディングポリシー」を策定

SFAでも技術委員会が中心となり、この3月、JFA アカデミー福島男子 EAST U-15 池内豊監督を講師にお招きして、「ヤーフガーディ

「シンクワークショップ」を開催しました。24名が受講し、今後各種別・各地域での講習会が予定されています。

対象……サッカーにおける全てのサッカーファミリー / ステークホルダー
基本原則として

子どもたちの安心・安全を守る

- ・子どもたちの喜びを広げ、成長を促す環境をつくる
- ・子どもたちに選択肢を与える
- ・子どもたちの声を聞き、対話する
- ・子どもたちの安全・安心を守る
- ・健康や環境リスクに対処する

ゼロ・トレランス 私たちは許さない

- ・あらゆる暴力・暴言を排除する
- ・あらゆる差別を排除する
- ・あらゆるハラスメントを排除する
- ・あらゆる誹謗中傷を排除する
- ・子ども同士の問題にもアプローチする
- ・サッカー外の問題にも気づく
- ・負の連鎖を断ち切る

そのためにも

- ・適切な人が子どもたちに関わるよう取り組む
- ・子どもたちを守るためにも、誠実に子どもたちに向き合う大人の安心・安全も守る
- ・起こったことへの対処とともに、予防・教育を重視する
- ・現場をオープンに。リスクの芽に気づき、声を掛け合う、伝え合う文化をつくる



公益財団法人日本サッカー協会

関わる私たち全員で守る！

サッカーでの安心・安全・そして笑顔

知っていますか？「JFAセーフガーディングポリシー」

基本原則

子どもたちの安心・安全を守る

- 子どもたちの喜びを広げ、成長を促す環境を構築する
- 子どもたちに選択権を与える
- 子どもたちの声を聞き、対話する
- 子どもたちの安心・安全を守る
- 健康や環境リスクに対応する

そのために

- 適切な人が子どもに関わるよう取り組む
- 子どもたちを守るために、誠実に子どもたちに向き合う大人の安心・安全を守る
- 起こったことへの対応とともに、予防・教育を重視する
- 現場をオープンに、リスクの芽に気づき、声を掛け合う、伝え合う文化をつくる

私たちは許さない

- あらゆる暴力・暴言を排除する
- あらゆる差別を排除する
- あらゆるハラスメントを排除する
- あらゆる誹謗中傷を排除する
- 子ども同士の問題にもアプローチする
- サッカー以外の問題にも気づく
- 負の連鎖を断ち切る

そしてこれは

- ファミリー全員の役割・義務であり、全員が当事者意識を持つ必要がある
- 定期的に現状や手順を評価し、状況の変化に応じてアップデートする必要がある

暴力等虐待相談窓口

https://www.jfa.jp/violence_eradication/

① 電話
相談番号 03-5721-8138
受付時間 原則 12:00～18:00（※事情により利用できない場合もあります）

② 暴力行為についてできる限り具体的な内容（いつ、誰が、誰に対して、どのような行為をしたのか）を把握し（たまたま偶然下着の洗濯機に落ちて、子供が触るという偶然な接触（見る、触る））の情報を把握しなくてはなりません。

③ 暴力行為（ハラスメント）が被害ファミリーに与える被害を受け付けます。

リスクと宣言 | リスペクト・フェアプレー | JFA.jp

<https://www.jfa.jp/respect/declaration/>

リスペクトの言葉を、常に念を込めて語り継ぐこと、そしてそれはフェアプレーの原点であると考えていきながらと考え、「大切に思うこと」に尽きます。

「フェアプレーを徹底する」と、リスペクトは、世界からも認められた日本の強みでもあります。日本人らしさを出して戦っていくことが大事です。それがサッカー、スポーツの価値を真の力でいこうとすることがあります。こういったことは日本に於ける社会の基幹となります。日本サッカーが磨き続け、サッカーが文化となる。サッカーから、スポーツ、そして日本社会にこういった価値観を広めていかなければなりません。

